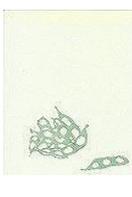
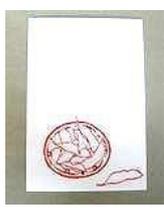
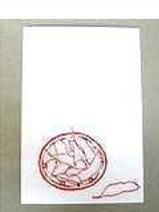
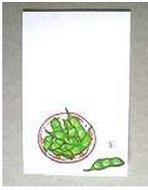


# 工房ゆう 木版はがきの制作手順

## (枝豆の制作過程)

	<p>仙台の皆さんこんにちは。創作木版画の「工房ゆう」です。手摺りの木版画はがきは、私たち二人が作っています。左が「ま」右が「ひ」です。写真は昔のもの、ちょっとさば読んでますね～。では「枝豆」を例に、はがき作りの過程をご紹介しますみましょう。</p>			
	<p>① まず、アイデアを練り、下絵をラフに描きます。何色であらわすか、よく考えて、色分け（色分解）も計画します。3色に決定！</p>		<p>⑧同じようにして、緑の部分だけ残した版を作ります。よく見ると2箇所の見当が彫ってあるのが分かりますね。</p>	
	<p>② トレースに正確に図柄を描きなおします。レイアウトを確認し、はがきの枠も書きます。</p>		<p>⑨2版目の緑版を摺ると、このような模様になります。赤版を摺った上に、黄緑の色を重ねるのです。</p>	
	<p>③ ②を裏返して版木に乗せ、間にカーボン紙を挟んで図柄を版木に転写します。</p>		<p>⑩3版目の青緑の版です。ここでも見当がよく分かりますね。枝豆の赤い輪郭線は黄緑や青緑の色が重なって、少し黒っぽくなってきます。</p>	
	<p>④ カーボン転写が終わりました。左下が鍵見当、その上に引き寄せ見当のマークも付けました。</p>		<p>⑪青緑はこんな図柄になっています。豆の立体感を出すために、黄緑色に陰影を付けるための色です。</p>	
	<p>⑤ 線の部分だけを残して彫り上げました。2箇所の見当も彫ってあります。すべての版木に見当が彫られます。位置合わせのためです。</p>		<p>⑫順番に色が重なっていく様子を見てみましょう。最初は赤でした。これに黄緑が重なります（下左）。</p>	
	<p>⑥ 見当にはがきの端を合わせ、摺ります。密着圧を加えますが、馬鹿力で摺るわけではありません。</p>			<p>⑬さらに青緑が重なって(右)、図柄が摺り上がります。</p>
	<p>⑦ 線彫りの版を摺りました。枝豆のアウトライン(輪郭線)と赤色絵の小鉢の模様とが彫り残してあります。</p>		<p>⑭摺り上がったはがきに落款を押して出来上がりです。落款の位置や色も絵の大事な要素ですから、どこに押すかよく考えます。</p>	